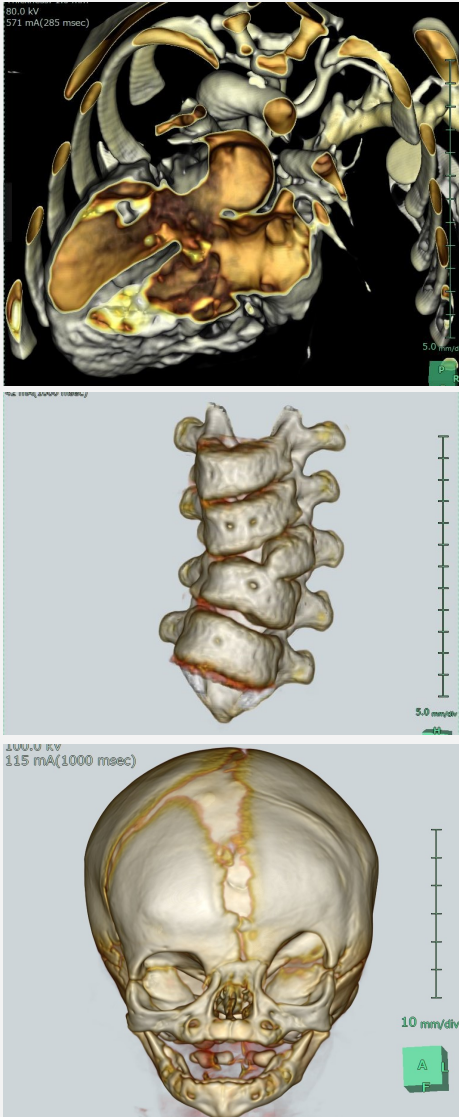


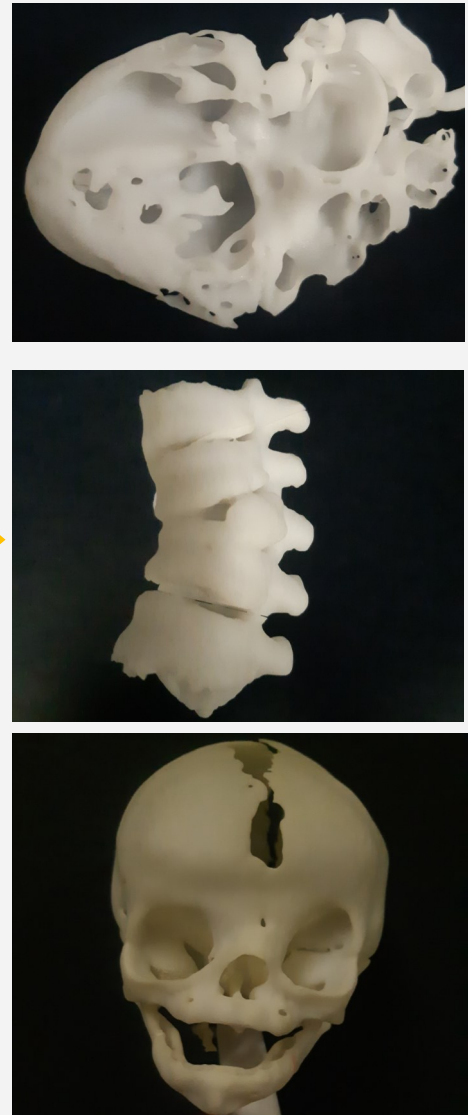
3D Printerの活用による診療支援及び教育

近年の画像処理の進化により、形態情報の把握は劇的に改善されましたが、画面上では、大きさや立体的な位置関係が理解しづらいという問題があります。3D Printerは、様々な分野で実用化されつつありますが、このような問題点を解決する手段として、医療分野でも活用を模索している状態です。当院にも3D Printerが導入され、造形物の提供を開始しました。

2Dによる情報提供



3Dによる情報提供：294x211x144mmまで



診療支援としての活用

- 手術前 複雑な構造の三次元的な把握・実物大を手にとったの検討・手技のシミュレーション
- 手術中 随時参照による全体像の把握
- 患者・家族への説明 病状や手術法の説明

教育支援としての活用

3Dプリンタを利用した臓器や骨などの医療用実体モデルの製作を行い、学生・研修医・スタッフなどの教育に活用する。